第四次情報革命　　　　『本が消える恐怖』

ご案内のように、アップルが発売したiPadが多くのファンを獲得、話題を呼んでいます。すでに先行している、キンドルなども含めて、インターネットが出版界を大きく変えていくことは確かでしょう。

　人によっては、人間が言葉を獲得したことを第一次コミュニケーション革命とすれば、人間が文字を獲得したことが第二次革命、そしてグーテンベルクが印刷技術を実現したことが第三次革命と考えていくと、インターネットが出現し、さまざまな情報が行きかうようになった今は第四次革命のさなかにある、という意見もあります。

　考えてみると、石に刻んだものから、レンガになり、パピルスになり、パーチメントになり、紙になって文字がつたえられていく媒体の変化、あるいは羽ペン、鉛筆、万年筆、ボールペンなどの筆記具、墨やインクなどの素材などにも、その変化が見られます。

　似たような現象は、通信方法が無線からラジオ、そして映像を伴ったテレビと発達するにつれ、映画が大きく変容したことにも現れました　。2010年6月

『本が消える恐怖』　　　本が消えてしまう恐怖を感じていたが、どうやら本物になりそうだ。

グーテンベルグの印刷革命で、ヨーロッパの社会は激変した。カトリック教会に閉じ込められていた聖書が、本で読めるようになり、ルターの宗教改革が起こり、プロテスタント派が出来た

そんな恐怖を2010年6月に感じて、私が提唱して8年間毎月一回、一度も休まずに「本当の本」勉強会を突然閉めてしまった。

今日の情報革命は、もっともっと大きい社会構造の変革を誘発するであろう。よくも悪くも、である。速やかに頭を切り替えなければならない。

面白いことは、このような新しい技術が起こると、それをすぐに取り込むのは、所謂インテリ層ではなく、ミーちゃん／ハーちゃん達だ。既に、電車内で観察すると、30％くらいの人が携帯を　“いじって”　いるが、ほとんどが若い人ミーハー的な感じのひとたちだ。

映画がはやり始めたときは、丹下左膳が活躍した。芸術映画は出てこない。

何故、知識レベルの人たちは、新しい世界の取り込みが下手なのか不思議だ。きっと、長年かかってたくわえてきた知識が役に立たなくなるのに抵抗するからだと思う。散歩道